

令和7年度
金剛寺小学校 研究推進計画

自律し、協働しながら学習を進めることができる児童の育成
～マイプラン学習（単元内自由進度学習）を充実させるための協働の場の工夫～

1 研究主題設定の理由

昨年度、研究主題「自律し、協働しながら学習を進めることができる児童の育成～マイプラン学習を充実させるための一斉指導の工夫を通して～」のもと、児童が学習に主体的に取り組む力を育成することに取り組んできた。その主な成果と課題は、次の通りである。

成 果

- ・自由進度学習やマイプラン学習を行うときに必要な調べ方やまとめ方、他者との話し合いによる意見の検討方法などを教職員で練り合い、練り合ったことを一斉指導に取り入れ、児童に指導していくことができた。
- ・児童アンケートの結果、「課題を解決するために自分に合った学び方で学習を進めたり、自主学習に取り組んだりしている」と肯定的な回答をした児童が94%と、授業だけでなく家庭学習においても、課題の解決に向けて、自分で考え、自分のペースで学びを進めることができる児童が増えた。
- ・自由進度学習やマイプラン学習では、特に ICT を活用し、児童同士が自分の考えや学習内容を発信し、共有することで、気づきや学びの質を高めることができた。学習したことをまとめて発信することで表現力も向上した。

課 題

- ・自由進度学習やマイプラン学習を行うときに、一人一人が自分の学習計画を立て、自分のペースで学習を進めていくため、他人との学び合いの場面が少なくなり、自分だけの学びに留まり、孤立した学びになりやすい。考えを広げ深めさせるための手立てや教師によるファシリテートが必要である。
- ・児童が教科の見方・考え方を働かせて課題解決するために、指導者による単元構想の理解や学習環境の工夫が必要である。

これらの成果と課題から、自由進度学習やマイプラン学習を行うことを継続しながら、孤立した学びにならないよう、学び合いの場がより充実するように協働の場の工夫について研究していくことや、教科の見方・考え方を働かせるために必要な教材研究や学習環境の工夫を行っていくことが必要である。

そこで今年度は、昨年度の研究に引き続き、研究主題を「自律し、協働しながら学習を進めることができる児童の育成～マイプラン学習（単元内自由進度学習）を充実させるための協働の場の工夫～」と設定し、効果的で実践的な研究を推進していくこととした。

取り組みの中心として、児童自ら学習の目標や教材について理解し、学習計画を立て、見通しをも

って学びを進め、その過程や達成状況を評価し合いながら次につなげ、学習の進め方を自ら調整していけるよう、指導者が教材研究や教材の準備を適切に行っていく。また、児童が友達と意見を交流し、よりよい考えを見付けるために「協働的な学びの場」を児童の必要感を見据えて意図的に取り入れ、必然性のある「学び合い」の場を設定する。その際に、自分や友達の学びを振り返る活動をすることで、次の学習や生活に生かそうとする力を身に付けていけるようにする。また、思考力・判断力を育てる学びの場や ICT を活用し、児童の学びに向かう主体性や思考力を高めていきたい。

さらに、個に合った学びを充実させるために、学習環境を工夫し、児童のつまずきに合わせて適切な学習支援ができるようにしていく。

① 本校では次のように授業の工夫を行う。

〈自由進度学習・マイプラン学習で必要な学習技能を一齐授業で意図的・計画的に指導〉

- ・教科の見方・考え方を働かせるために必要な教材研究や教材の準備を指導者が適切に行ったり、全ての授業で学び方や調べ方、まとめ方、他者との話し合いによる意見の検討の方法などを児童に身に付けさせるための指導の工夫を行ったりするために、低・中・高学年ごとに協力して教材研究や教材の準備を行う時間を校内研修に位置付ける。

・単元構想シートの活用

〈一齐指導での学びを生かした自由進度学習・マイプラン学習の設定〉

- ・一齐指導で身に付けた学び方や調べ方、まとめ方、他者との話し合いによる意見の検討の方法などを生かした自由進度学習・マイプラン学習を設定するために、研究授業は、自由進度学習・マイプラン学習で必要な学び方を指導する一齐授業と一齐授業の学びを生かした自由進度学習・マイプラン学習の2つの学習形態の授業を各学年が行う。(単学級は、どちらかを選んで行う。)

〈学習スタイルの構築〉

- ・発表名人・聞き方名人・書き方名人を提示し、児童がどのような姿を目指せばよいかを明確にする。
- ・思考ツールを活用し、児童自ら思考の整理と可視化を促す。
- ・classroom を活用し、児童自身が情報収集をしたり、発信したりできる機会を増やす。
高学年は、意見を交流する効果的な道具として活用する。
- ・授業の初めに自分でめあてを設定し、終わりにめあてに対する振り返りを行う。その時に、めあてが達成できた時もできなかった時もその理由を考えさせ、次の時間にどのようにするかを自分の言葉で書かせ、次時の学習に生かす。

② 生活科・総合的な学習の時間でのグループ別探究，個人テーマ探究

- ・生活科・総合的な学習の時間の単元計画を見直し、6年間を通して、ふるさと串戸への愛着を深めるような単元計画とする。
- ・各教科で培った知識・技能等を生かした、横断的な学びを展開させる。

③ 学校と家庭の連続した学び

- ・自学ノートに取り組み、自分のために学習を進めたり、友達とノートを見せ合ったりして、ノートに自分でまとめる力や自分にあった方法で工夫して学習を行う力を身に付ける。
- ・3年生以上は、予習、復習を自学に取り入れることで、自らの学びの深まりを実感させる。

2 研究仮説

授業の中で、児童が友達と意見を交流し、よりよい考えを見つける「協働的な学びの場」の工夫を取り入れ、必然性のある「学び合い」の場を設定すれば、自律し協働しながら主体的に学習に取り組む児童を育成することができるであろう。

3 研究の視点

主体的に学習に取り組むための目指す児童像

① 「自律する」＝自分で考えて自分自身をコントロールできること

- ・低学年…学習の手引きをもとに先生に相談するなどして自分の学習計画を立てる
- ・中学年…学習の手引きをもとに自分の学習計画を立て、自分が苦手なことを克服することができるように粘り強く取り組む
- ・高学年…自分の学習計画を立て、さらに自分の力を伸ばすための学習にチャレンジすることができる

② 「協働する」＝同じ目的のために力を合わせて働くこと

- ・低学年…自分の考えを友達に伝えながら協力して学習を進める
- ・中学年…友達の考えと比較し、自分の考えに取り入れながら課題を解決しようとする
- ・高学年…他者の考えを受け入れ、様々な方法を試したり意見を聞いたりしながら、根拠をもって自分の考えをもち、課題を解決しようとする

4 研究授業での協議の柱

協議の柱	方法
① 協働的な学びの場の設定は、マイプラン学習（自由進度、一斉指導）の充実につながるものだったか。	研究授業での職員の見取り
② ICT の活用は、児童の主体性や思考力を高めるものだったか。	研究授業での児童の観察・分析

5 検証の指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
教科において児童の理解を深めることができたか。	廿日市市学力調査	個の児童の 経年変化	児童の前年度と比較し通過率が上昇した児童 90 %（3 年生以上）

6 校内研修計画

月 日	曜日	研修内容
5月1日	木	研究開き「今年度の研究について」 金剛寺小学校の目指す児童像 授業像の共有 研究開き「研究推進計画」 理論研修
5月13日	火	ICT研修①
5月20日	火	ICT研修②
5月29日	木	理論研修
6月12日	木	研究授業事前研修
6月19日	木	研究授業① 算数科（長谷川先生 2年生）
6月25日	水	理論研修
7月25日	金	1学期報告会
7月31日	木	理論研修（1学期の振り返り）
8月27日	水	・学力分析研修（全国学力・学習状況調査）1h ＊結果がこの日までに来なかったら夏休み中に時間を設定する。 ・公開研指導案検討 1h（永岡）
9月 4日	木	研究授業事前研修（永岡）
9月22日	月	研究授業②【中学校区・マイプラン】（永岡先生 5年生）
10月16日	木	研究授業事前研修（南）
10月23日	木	研究授業③（青木先生 6年生）
12月12日	金	・2学期報告会 ・2学期の振り返り
1月15日	木	研究授業事前研修（青木）
1月22日	木	研究授業④（南先生 6年生）
2月19日	木	理論研修
2月26日	木	学力分析研修（標準学力調査）
3月12日	木	・3学期報告会 ・1年間のまとめ

授業提案は自由進度学習・マイプラン学習の授業を行う。（低・中・高学年）

中学校区 1本

教材研究と教材準備のための時間をミニ研修という形でとる。（この時間を使って、見通しをもつて、計画的に行う。）

理論研修を行う。（年に数回行うことで、本校の研究内容について意識統一を図る。）

＊9月に中学校区の授業を自由進度学習・マイプラン学習で行う。